

「小さいコミュニティ（自治組織）の活性化について」提言



平成29年3月15日
市民協働推進会議

1 はじめに

今回、市民協働推進会議では、小さいコミュニティ、具体的には町内会単位の組織や活動のあり方について、焦点を絞って議論を行ってきました。

幸い今期の推進会議には、現役の高専生から自治組織の役員経験者まで、幅広い層のメンバーが揃っており、良い意味でゼロベースから町内会等の活動について、意見交換を行うことができました。

「町内会があるのは知っているけれど・・・」

「そもそも自治組織って何のためにあるの？」

実際には、多くの市民の皆さんが自治組織の存在は認めていると思われます。しかし、そうした組織が一番存在感を発揮するのは、災害発生時や住民相互の助け合いが必要なときなど「いざというとき」＝何かしら「共同の困り事」が生じたときです。つまり、なかなか日常の生活の中では、具体的に機能しているところが見えにくいものです。

そうしたことから町内会の活動に対し、「面倒くさい」「興味がない」「やらされ感」というイメージが付きまとっているのも事実です。その結果、「近所づきあいが希薄化してきた」「活動への参加者が減ってきた、固定化してきた」「役員のなり手が少ない」などの課題も聞こえてくるようになっていきます。

一方でこの間、鯖江市が進めてきた「市民主役」という考え方は、行政の仕事や市全体に関わるような大きな事項に携わることとは限りません。むしろ、一人ひとりの市民が、自分のまわりの公的なことをちょっとずつ負担しながら支えることから始まるのではないのでしょうか。

その意味では、自治組織こそ『市民主役』の場。今後「市民主役のまちづくり」をより一層進めるためには、コミュニティの最も基礎的な単位である自治組織＝町内会の活性化が不可欠であると思われます。

もう一度、自治組織の原点である「参加」「支え合い」「つながり」を取り戻すこと・・・そうした観点からとりまとめたいくつかの提言を、当意見書にまとめました。今後、鯖江市における活性化議論の一助になれば幸いです。



2 経緯

回	日 付	会 議 名	検 討 内 容
1	平成 27 年 10 月 6 日	第 4 回市民協働推進会議	テーマ正式決定
2	同 11 月 9 日	第 5 回市民協働推進会議	地域コミュニティの現状について（基礎情報の整理、現状把握）
3	同 12 月 14 日	第 6 回市民協働推進会議	事例学習（新出町、越前市芝原 5 丁目）
4	平成 28 年 2 月 28 日	市社会教育研究集会	鹿児島県鹿屋市柳谷集落（通称やねだん）自治公民館長「豊重哲郎」氏の講演 市民まちづくり応援団事業（吉川・豊地区の活動報告）
5	同	第 7 回市民協働推進会議	上記研究集会に参加したことを受けての意見交換
6	同 12 月 1 日	第 8 回市民協働推進会議	市民主役フォーラム(10 月 29 日)における北中山まちづくり委員会および 3 町内の活性化事業について 提言書の提出に向けての意見集約
7	平成 29 年 12 月	提言書作成に向けたアンケート	各委員から提出
8	平成 29 年 1 月 31 日	第 9 回市民協働推進会議	提言書まとめ
9	平成 29 年 3 月 15 日	提言書提出	



H28.2.25 中日新聞 やねだん記事



市民主役フォーラムの様子

3 現状と解決へのヒント

自らが所属する町内会の事例や、フォーラム・講演会等で得た先進的な取り組み等を参考にしながら、以下の3つの観点から現状・課題等、解決へのヒント・考え方をまとめました。

- 1) 「区長って大変？」・・・役員選出のあり方
- 2) 「去年も同じ愚痴を言っていた」・・・活動の見直し機会等
- 3) 「いつも同じ人ばかり」・・・これまで参加していない方の巻き込み

1) 役員選出のあり方

まず近年、どの団体においても、組織を引っ張っていくリーダーとなる人材が不足していると言われています。リーダーになれる素質のある方はむしろ少なくないと思われますが、責任ある立場を引き受けたくないと思う人が増えているのも事実です。従来、自治組織＝町内会の運営は、区長さんを中心に行われてきました。ただし、区長という立場は、事実上、町内の「よろず承り所」のようになっており、町内のトラブル解決や行政への要望の窓口になっています。

ある町内では、カラス等にごみステーションが荒らされたり、ごみを取り残されたりしていると、毎回、区長に「処理して」と電話がかかってくるそうです。町民としても、「何でもかんでも区長に頼む」のではなく、せめて身のまわりのささいな事項は自分たちで処理する、というような気概も持ちたいものですが、現実にはなかなか厳しいものがあります。気苦労も多いことが推察され、「できればやりたくない」というのが一般的な感覚でしょう。

区長は、その組織の一定の立場にある方の中から、選挙や推薦等で文字どおり「選ばれて」いました。しかし近年、新しく団地造成などでできた町内では、区長を全世帯を対象に当番制でまわすなど、その位置付けも変わりつつあります。

近年の統計では、全町内の約65%で1年サイクルで区長が交代しています。

その他の役員さんも一年交代の方が多く、継続的に町内の運営に携わる方が少なくなっていると思われます。

また長年、同じ方が区長を務めている町内もあり、こちらでは「交代してくださる方がいない」という悩みもあります。

平成24年に行った区長アンケートでは、「町内活動を行うに当たっての課題」として、以下の項目が多く選ばれました。

- ①役員の担い手不足 ②特定の参加者ばかり ③住民の無関心
- ④参加者の減少 ⑤資金不足

これを見ても、区長を始めとした役員を探すことが、なかなか難しくなっていることがわかります。

その意味では、より多くの住民が参画できるような新たな組織体制づくりを模索する時期にきていると言えます。

	現状・課題等	解決へのヒント・考え方
1	区長は1年交代の町内（「1年だけがまんすれば・・・」）	・いずれの場合も、区長にのみ大きな負担がかかるが、「順番なので仕方がない」「自分だけ他人に助けってもらえない」との考えから、仕事を他の方に振ることができない。 ・区長経験者が翌年、副区長となり新しい区長を補佐する体制を採っている場合もある。
	特定の方が区長をする町内（「余裕のある人しかできない」）	
2	町内で、区長が相談・協力を頼めるような仕組みがない。	・（市民主役フォーラムから）河和田町の場合、協議員、委員会等を設け、総勢約90人の役員が町政に関わっている。 ・まつり委員会、防災委員会、環境美化委員会など、分野別の各種委員会を作り仕事を振り分けることで、誰もが関わりやすい体制づくりを図る。
	役員以外の発想を取り入れる機会がない。	
3	役員以外の町政への参画は、ほぼない。	・（市民主役フォーラムから）西山町の場合、ごみステーションまわりの美化保全活動に、他の町内で一般的な「ごみ当番」は置かず、自発的に有志住民が担当。特に「勤めていた間は他の方にお世話になっていたが、退職したのでこれまでの感謝の気持ちで参加している」という方が多く、自然な形で継続が図られている。
	役員が終わったら、参画できない。	
		・順番で担うべき活動と、意欲の高い方が継続して担う活動のバランスが重要になってくる。 ・班長等で参加した役員経験者のうち、意欲のある方等の継続的な参画機会を確保する制度があるか。

2) 活動の見直し機会等

町内会の活動は、ほぼ年中行事化しており、毎年同じ時期に同じ行事が行われていることが多いと思われます。問題・課題がない場合は、それでもかまわないのですが、上記アンケートを見ても、「②特定の参加者ばかり、③住民の無関心、④参加者の減少」といった活動のマンネリ化に伴う弊害が見受けられるところです。

つまり課題はあってもなかなか見直せないというのが、自治組織＝町内会の活動の特徴でもあります。

その意味では、団地造成などで新たな住民が加わったり、ごみ問題が起こったりしたときなど、新たな事態が起こったときが、改革のきっかけとなる場合があります。「あたりまえ」「いつもやっているから」でなく、一度立ち止まり、活動の意義を考えてみる機会を作ることが求められています。

	現状・課題等	解決へのヒント・考え方
1	活動が固定的である（見直しが行われにくい）。	・団地造成などで新たな住民が加わることで、班の区割り、役員の仕事分担、区費の額等、自ずと新しい動きが生まれる。
	「あたりまえ」「説明しなくてもわかる」・・・暗黙上の了解が多く、新規住民等には活動の意義・中身等が伝わっていない。	・総会や機関会議でも、説明資料・過去の状況一覧等、新たに役員になったものにもわかりやすい情報提供が必要である。 ・新出町では、班単位で1年ごとに仕事を回す体制を採り、それを機に町内行事の「マニュアル化」を図っている町内もある。
	情報提供・報告が少ない。	・落井町では区長が毎月「落井町だより」（A4片面）を発行し、住民の皆さんにお知らせや町内の行事等を広報している。
2	基本的に1年単位の活動であるので、その期間内では解決しにくい（課題の持ち越しが多い）	・解決のためには、中長期的な見直しが必要となる。 1年1年改革を積み重ね、望ましい活動・組織に無理なくバージョンアップしていく。

3) これまで参加していない方の巻き込み

これまで町内会の活動は、一世帯で一人の参加が中心でした。総会などの議決事項は、全住民の評決が必要としていても、便宜的に世帯代表の評決で代用されている場合がほとんどです。

その意味では今後は、女性を始め、子ども、障がいのある方、外国人市民、勤労住民などこれまであまり活動に関わっていなかった方をいかに巻き込むかが、活性化の鍵になっていると言えます。

ただその場合も、「参加者が少ない」「固定化している」結果「声をかけても無理」という従来の意識の壁を乗り越える必要があります。

かつてのように身近な地域内で人や物が循環していた時代ではなくなり、企業等に雇用され勤めをする方が78%にもなっています。するとどうしても勤務先と自宅を自家用車で往復することが日課になってしまい、そうした生活サイクルからは町内会の活動への関心はなかなか高まらないことが、容易に想像できます。

しかし、現在は現在の関心のあり方があるはずです。それぞれの世代・住民層に向けた、よりきめこまやかな工夫が問われている時代と言えます。

	現状・課題等	解決へのヒント・考え方
1	活動の中で、女性（団体）は炊き出し、内そうじ、男性（団体）は外仕事、イベント準備等、役割分担がほぼ決まっている場合が多い。	・役割分担を見直しするより、例年どおり・通例どおりに物事を進めた方が、時間も手間もかからない、という考え方が強い。 ・「やらされ感」のない自発的な活動が、新たな参加を生む。
	女性の参画が少ない。	・女性に参画してもらうことを前提に活動を組み立てることで、新たな考えが生まれる場合がある（横浜市都筑区高山自治会、豊地区）。
2	女性、壮年層、高齢者、子育て世代等、それぞれが団体としての活動は熱心にしても、他の層の住民と交わることが少ない。	・相互の交流、連携が重要である。壮年団の活動の中に、婦人（女性）や子どもを巻き込んでいる活動もある。婦人会が若い子育て世代向けに「お菓子作り講座」を行うなどの工夫もある。 ・地区子育てネットワーク、ご近所福祉ネットワークのように、課題やテーマで連携している例も近年、見られる。
3	一般に、子どもは大人から与えられた活動に参加しているだけの場合が多い。	・子どもに主体的にまちづくりに関わってもらうための取り組みも始まっている（吉川地区子ども版まちづくり応援団養成講座、さばえ子ども商店街aKInD's（あきんず））。
4	婦人会、青年団の活動が弱体化した中で、壮年団は比較的、活動が継続している。	・参加することが負担になるのではなく、楽しみになるような活動のあり方が求められている。そのためには、「～しなければならない」「～して当然だ」というような理念中心ではない参加呼びかけが重要である。 ・壮年層の中で、親の世代に変わり自分たちが町内活動を担っていくという意識が高まっている町内もある（戸口町）。
5	運動会・体育会等でも「決まった方が参加している」「若者が参加してくれない」というような悩みがある。	・左のような悩みがある一方で、前年の参加者リストを元に勧誘を行っており、幅広い参加呼びかけを行っていない場合がある。

4 提言・具体案

A 自治組織の皆さん向けの具体案

1) 「町内事務の分担」

町内活動の多くは、「みんながやっているから私も行う」「順番に担う」というある意味、義務的な考え方から成り立っています。「今年は役員だから、この1年だけはできるかぎり町内活動をする（しかし、役員が終わったらすっかり手を引く）」というような役員意識が一般的でした。特に区長ともなると、自分がしないと誰もしてくれないという思いの元、どうしても自分ひとりで業務を抱え込んでしまう傾向があるようです。

それを打破するには、これまでのように、区長（あるいは会計担当）に集中しないような町内事務の分担が必要です。

①防災、環境、ご近所福祉、町民交流（まつり）、生涯学習など、分野ごとの委員会等の組織を整備し、区長業務の分散化を図る。

②一年交代の役員のほかに、意欲・技能を持つ方を委員会に登用する。

③そのことを通じ、各委員長に業務を振り分け、区長になることの負担感を軽減していく。ということを提案します。そうした改革ができるかできないかが、今後、町内会組織の長期継続には不可欠になってくると考えられます。

2) 「町内活動の情報交流を図る」

確かに町内では全員参加で行う活動も多く、「活動に出るのは当然」「出ないのはわがまま」と考える方もいるかもしれません。しかし生活様式が多様化し、家族の構成員も減りつつある中で、必ず決められた時間、決められた場所に人を出したりすることが難しい時代にもなっています。その場合、各町内の事情に応じ、無理のないやり方を考えることも必要となっています。

「昔はこうしていた」「～しなければならない」「～して当然だ」と決めつけるのではなく、いったんまわりを見、情報を集めることでゼロベースで考える基盤ができます。

そのために、

①各町内の取り組み事例を集め、現場や行政を含め共有化できるようにする（「まちづくり事例集」の発刊）

②平成28年度の「市民主役フォーラム」のように、各町内の活動事例を発表し、それぞれが情報交換できるような場を作る。

ことが必要と考えられます。

そうしたことを通じ、市民（町内）・議会・市役所などまちづくりの各アクターが、身近に各種情報やくらしの中の課題・問題点等を共有する仕組みづくりにもつながってきます。

3)「居場所と出番をつくる」

町内でスポーツイベントやバーベキュー大会などのイベントを企画することが多いと思いますが、それが新たな参加のきっかけになったり新たな交流につながったりしているのでしょうか。いつも同じ時期に同じイベントを行っていて、同じような参加者しか来ないと嘆いていないのでしょうか。

また、町内会の活動は壮年以上の男性中心の会議で決められており、何が話し合われているのか家庭等では話題に挙がらないことが多いようです。その意味では、活動のテーマについても、各家庭でも話題にできるようなものをもっと取り入れると良いのではないのでしょうか。IT、健康づくり、ダイエット、エコ、災害対策・・・今、どんなことが参加者の関心事かを考えて、企画していくことで新たな参加者を呼び込むことも可能でしょう。また、できるだけ親子で参加できるようなイベント・事業を積極的に取り入れれば、若い親が町内活動に参加するきっかけになります。そのことが中長期的に見れば、若い世代に地域への愛着や誇りを継承していくこともできます。

つまり老若男女誰でも気軽に交流できるような「居場所づくり」が、今まさに町内活動で重要になっています。

その意味で、上記2)の取り組みでもあったように、団塊の世代のリタイヤ組への参加呼びかけも有効だと思われます。例えば、パソコンの得意な方がいらっしゃったらその方を講師に学習会を行うとか、ヨガなど女性に人気のアクティビティの経験者がいらっしゃればイベントの一環で体験会を行ってみるとか、ぜひ積極的な声かけを行ってみてはどうでしょうか。

これらを通じて言えることは、見知らぬ住民の方を受け入れる心が、町内会組織にあるかどうか、ということに尽きます。単なる事業の参加者であるより、事業の関係者として関わってもらうことで、その方の「出番」が作られます。

近年、市内で活発に行われている登下校時における児童の見守り活動の例では、「孫がいるから」等の個人的な理由でなく、「地域の役に立つ活動である」「自分にもできる」という思いから参加されている方が多いと思います。つまり、「あたりまえ」「決まっているから」ではなく、できることを少しずつ持ち寄り、自発的に行う町内活動を目指していく必要があります。その上で、自治組織の仕事を、それぞれの構成員が「他人事（ひとごと）」でなく「自分事」として感じてもらうような取り組みが、今こそ求められています。

また、人集めや情報提供の手法についても、SNSなどを有効に活用し、直接民主主義的なゆるいつながりを意識するような取り組みが有効的だと思われます。住民への活動報告は年に一度の総会時だけ、という町内は意外と多いものです。メールやインターネットなど便利なツールも使いながら、効率的・効果的な町内活動を目指していきましょう。



B 行政向けの具体案

1) 「中長期的なビジョンの策定」

5年先・10年先、さらに20年先を見据えた地域づくり・まちづくりが語られていない現状があります。私たちにとっては、「自分」と「自分の子どもたちの世代」が、楽しく豊かに過ごせるまちが20年後にあるのか？ 作れるのか？ というのが、このまちで生活していく中での一つの目標です。未来を想定していない目先のことに、エネルギーを注ぐようなことはできるだけしたくない、という気持ちもあります。

「市民主役のまち・鯖江」には、市民の方に参加していただく会議体などがたくさんありますが、当たり前に来てくださるものと思わずに、「この会議がなぜ必要なのか？」「なぜこの仕事をやっているのか」を考え、参加してくださった方々の時間を有効に昇華させることが、より良い市民活動・市民参加を生むことにつながると思います。

組織が中長期的な展望を持ち継続的に改革に取り組むには、まず将来あるべき姿を見極め、その達成のために「目標が達成できたか？」「最終的な自治組織の目的に近づいたか？」ということ問い続けながら、一年一年成果を積み重ねていくことが求められます。

各地区・各町内でも取り組みが始まってはいますが、その動きを確かなものにするためにも、地域コミュニティの活性化を目指した中長期的なビジョンを官民協働で策定してはどうでしょうか。

区長会、まちづくり協議会、公民館関係者、壮年団、女性会、商工関係者等の参画を得て、それらの意見を吸い上げ、上記ビジョンの策定に活かしていくことで、市民による市民のための「まちづくりビジョン」が生まれてくることを期待します。

2) 「行政の各組織の連携・役割分担」

変化を求めるなら、変化が起こるような土壌を作る必要があります。

今回のような「まちづくり、地域、市民団体」が絡み合っている課題の場合、それらのあいだの整合性をとるためにも、各分野を横断したチームが行政内にあると、効率よく計画等が進められると思います。市民側に検討してほしい議題を持ち込む場合も、担当課プラス横断チームで来てもらえると、キャッチボールが続く関係が生まれます。

よって、地域コミュニティを始め市民が参画するような会議に、担当課とは別の目線を持ってできるチームの設立を望みます。決して大げさな仕組みでなくても良く、関係各課から一人ずつ出してもらい、そのメンバーで集まって仕事をする。そこに話が持ち込まれるとみんなが聞き耳を立てて、自由に意見が交わされ、最終的に担当課とともに対応をする、というような組織が考えられます。

また、上記1)のビジョン策定とも関わりますが、現在、行政（市役所等）が担うことと地域が担うことのあいだで、「揺らぎ」が生じていると考えられます。特に急速に進む少子高齢化の中で、「地域コミュニティが自らできることは何か」を真剣に議論しなければ、行政も地域も共倒れになる恐れさえあります。家庭、地域、行政がそれぞれの役割を見出し、新たな協働関係を築くことなしに、持続可能なまちは実現できません。臨機応変さも確保しながら、既存の枠を超えて市民との関係性を見直していく勇気を期待します。

5 まとめ

鯖江市は、「市民主役のまち」として近隣市町村だけでなく、全国からも認められています。様々な市民活動団体が行政と協働し、活気あふれるまちとしての評価は年々上昇しています。そこで、市全体を見渡した時、本来最も市民が主役と言える小さなコミュニティ（自治組織）の現状はどうなっているのだろう、そんな興味が湧いてきました。

自分の生活している地域については知っていますが、他の地域については全く知りません。様々な事例を集め、多様な世代の意見を集めていくと、「自治組織を活性化する」・・・言うは簡単ですが、そんなに単純ではない現状が浮かび上がってきました。町内の数だけ課題があり、世代の数だけ意見があります。この提言書はその全てを解決出来るものではありません。ただ、これからの自治組織を考え・運営していく上で何かヒントになれば、そのような思いで提言書としてまとめさせていただきました。

コミュニティ、自治組織、活性化・・・何か難しそうな感じがしますが、一言で表せば、「助け合い・支え合い」だと思います。せめて自分の生活している廻りの人たちだけでも、助け合い・支え合っていこうよ。そんな地域がこれからも増え続けていくことで、その意識がまち全体に広がり、10年、20年先の「市民主役のまち」はより素敵なまちになっていくのではないかと思います。



最後に・・・

日々がんばっていらっしゃるリーダー（区長さん）さんへ、委員からのメッセージ

「元氣な地域(町内)をつくるための15の言葉 プラス1」

A リーダー（区長さん）が、主にがんばっている町内では・・・

「できる人より探す人になろう」

1. リーダー（区長さん）さん、あなたは「ひとり」ではない。
2. 「ひとり」ではできないことをするために、仲間がいる。町内がある。
3. 町内には、あなたができないことを楽々とできる人が必ず一人はいる。
4. 「お願いします」を言うのは勇気が必要。でも「私がやります」と言えるあなたなら、必ずそう言える。
5. まず「助さん」「格さん」を見つけよう。でも「うっかり八兵衛」もいなければ、おもしろくない。「適材適所」のまちづくりを。

B 活動がマンネリ化していると感じている町内では・・・

「やめる勇気を持とう」

6. 「やめる勇気」は、「続ける勇気」に勝る。
7. 「こうすると決まっている」「～して当然だ」は言わないようにしよう。
8. 反省会&慰労会で出た意見は、必ず書き留めておこう。
9. 小さなことでもいいから今年の町内の目標を立てよう。目標があるから人はがんばれる。
10. できなかったこと＝失敗を数えるのではなく、できたこと＝成功をひとつでも見つけよう。

C いつも決まった人しか出てこない町内では・・・

「伝える、つながる、広がる」

11. 意外な特技を持っている人が、意外なところにいる。
12. そのイベント等があることは相手に伝わっていても、そのイベント等に来てほしいというあなたの意図は伝わっていないことが多い。
13. 「あなたに来てほしい」と言おう。望まれてもいない場所に人は行きたがらない。
14. 「あなたが来てくれて、私はうれしい」と言おう。その一言で、その人が今、望まれた場所にいることがわかる。
15. 「あなたが来てくれて、私たちはうれしい」と言おう。その一言で、その人は町内の一員になれる。

おまけの一言・・・

16. あなたは住民一人ひとりが主人公になっている映画の登場人物。「名わき役」を演じて助演男優賞・助演女優賞を目指そう。